



架設後は、問題なく作動するかの点検を行います。学科講習で学んだ振動波による主索緊張度の検定や安全係数、主要機器の据え付け方法も再度確認しました。その後、試運転を行い、安全に運転できることを確認しました。

今回エンドレスタイラー式の索張り方式にて架設を行いました。加えて、搬器等を集材点から林

内に引き戻すための作業索である引戻索（ホールバックライン）も設置しました。そのため、運転実習ではホールバックラインを動かしながら、エンドレスラインをフリー状態にする操作や必要に応じてブレーキ操作を行うなど、複合的な操作が必要となり、研修生が苦戦する場面もありました。また、班ごとに分かれて、荷下ろし場・先柱側からの無線による指示から架線集材作業の実践を行うことで、先柱側での搬器に吊り下げた荷において、障害物を避けるなどの微調整が必要な動きには的確な指示を分かりやすく運転者に伝えることが重要であることを学ぶことができました。

今回学んだ技術を活かし、林業架線作業の業務に2年以上従事したあと林業架線作業主任者免許

### 日々の”活動報告”やっています！

林業大学のHP・各種SNSでは、今回紹介させていただいたような講義や実習についての活動報告を紹介しています。興味がある方は是非ご覧下さい。(下記QRコードより閲覧できます)



HP



Instagram



Facebook



Twitter

の申請が可能となります。全国的に見ても先進的な取り組みを行ってきた高知の林業架線技術を、本校研修生が継承し、牽引していくことを願っています。

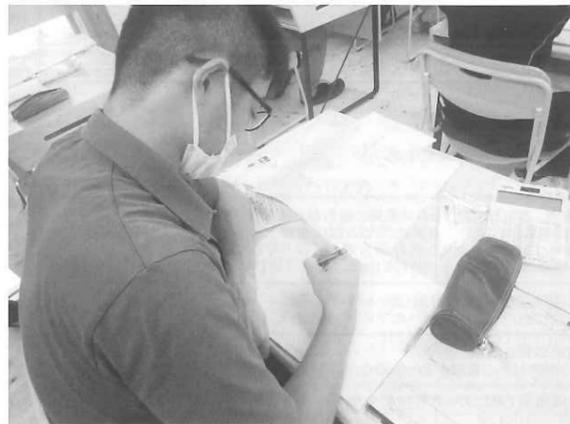
# 林大の風

第31号 高知県立林業大学校

## 「林業架線作業主任者講習」

林業架線作業は急傾斜地の多い高知県では多くの現場で行われ、研修生が今後の林業に携わる上で必須の技術と言えます。

専攻課程森林管理コースと林業技術コースでは、林業架線作業主任者免許を取得すべく、9月7日から9月16日まで学科講習を、9月20日から9月29日まで実技講習を行いました。



受講前には、高知県森林技術センターの山崎課長にご協力いただき、架線作業において覚えておくべき数字（ワイヤクリップの留める間隔や控索を張る上で必要な角度の考え方など）や器具を使ってワイヤーを止める方法など、講習を受ける上で役立つ内容を教えていただきました。

また、林業大学の実習棟内に設置されている架線シュミレータを使用した運転実習も行い、架線作業についてのイメージを持つこともできました。

計53時間の学科講習・試験では林業架線に関する基礎的な知識を始め、関係法令や力学的な計算など幅広い内容を学びます。研修生は、聞き慣れない用語や安全な架設・

架線集材作業を行う上で守らなければならないルールなどをしっかりと学び、全員が無事に学科試験を合格することができました。

実技講習は計50時間ありました。まずは、実際に索張りを行う現地の確認を行った後に必要な機材や器具の確認を行います。次に、集材機の据え付け・各柱における控索

の設置など索張りの手順を1つ1つ丁寧に教わりました。併せて、ガイドブロックの向きやクリップの締める方向など細かなことが架線全体の強度、そして安全につながることも教えていただきました。例年であればドローンを活用してリードロープを張り、主索や作業索を順番に架設していきますが、風が強かったためドローンを使用することができず、リードロープの送り出し作業は人力で行いました。

